

2011年6月16日

お客様各位

日商エレクトロニクス株式会社
ソリューションパートナー事業本部
技術統括部 サポート第二グループ

MOS4.2.3- GA リリースのご案内

拝啓

貴社益々ご清栄の段、お慶び申し上げます。

平素は格別なるご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、この度 MOS4.2.3-GA のリリースを弊社より開始させていただきます事をご案内申し上げます。

バージョンアップをご希望されるお客様は、下記内容をお読みの上インストールをご実施頂きます様、宜しく願い申し上げます。

敬具

- 記 -

対象のお客様

Mirapoint 6シリーズハードウェアモデル(1)および61シリーズハードウェアモデル(2)、7シリーズハードウェアモデル(3)をご使用中で、かつ次の何れかの条件を満たすお客様はバージョンアップが可能です。

- MOS4.0.x、MOS4.1.x 若しくは MOS4.2.x で運用中のお客様
- 購入から一年以内、若しくは保守契約を締結されているお客様

(1) 6シリーズハードウェアモデル

RG160, RG600, RG6000, M600, M6000, S6000

(2) 61シリーズハードウェアモデル

RG610, RG6100, M610, M6100

(3) 7シリーズハードウェアモデル

RG170, RG700, RG7000, M700, M7000, S7000, M7700

MOS4.2.3-GA の新機能と変更点

< 新機能 >

MOS4.2.3 に於いて追加された新機能は次の通りです。

1. 7シリーズハードウェアモデル

新たにリリースされた7シリーズハードウェアモデルがサポートされました。

2. ローカルディスクにおけるバックアップ機能

7シリーズ(RG170、S7000を除く)アプライアンスの空きスロットに SAS ディスクを使用してフルバックアップとリストアが可能になりました。

3. セレクティブリストア機能

7シリーズで搭載可能なローカルディスクもしくはスナップショット(S7000)を使用してセレクティブリストアを行なうことが可能になりました。

機能を利用するには、別途ライセンスが必要になります。

4. アンチスパム機能

新たに Premium アンチスパムエンジンがサポートされました。

これは単独での使用、もしくはマルチエンジンモード(シグネチャエディションと組み合わせて使用する)ことが可能になりました。

機能を利用するには、別途ライセンスが必要になります。

5. 最大メッセージ合計サイズ

SMTPにおいて最大メッセージ合計サイズ (一通辺りのメッセージサイズ×メッセージの受信者数)の制限が追加されました。特に希望の値が無い場合、推奨値 (314,572,800 byte) を設定して下さい。以下のコマンドで設定が可能です。SMTPサービスの再起動が発生します。

```
CLI> smtp set maxmsgsum 314572800
```

< 主な変更/修正項目 >

MOS4.2.3に於いて修正された主な項目は次の通りです。

1. アンチウイルスエンジン

アンチウイルスエンジン(F-secure)が更新された際、バックグラウンド上でアンチウイルススキャンエンジンが再起動され後、スキャンエンジンが正常に起動されない問題がございましたが、本バージョンで修正されました。

2. RSR 機能

メールに 2byte 文字を含んでいた場合に RSR のマスタ機にて削除されたメールがレプリカ機で削除出来ない問題がございましたが、本バージョンで修正されました。

3. メールキュー

mailreturn の設定期間を経過しても、メール(例えばバウンスメール)がキューから削除されないまま未処理としてキューに蓄積する問題がございましたが、本バージョンで修正されました。

4. システムログ

AntiSpam 機能を使用している場合、システムログに本来ログ表示されるべきでは無い内部ログが出力される問題がございましたが、本バージョンで修正されました。

5. ホワイトリスト/ブラックリスト

MOS4.1.10 へバージョンアップ後、Whitelist や Blacklist を使用している環境に於いてその内容を正しく結果を得られなかった問題がございましたが、本バージョンで修正されました。

6. ジャンクメールフィルタ

MOS4.1.9 以降スパマーによる X-Junkmail ヘッダー詐称を防止するため、X-Junkmail ヘッダーの扱いの仕様が変更されております。

前段の RazorGate にて付加された X-Junkmail ヘッダーが、後段の RazorGate もしくは MessagesServer に転送された時点で削除されます。

これにより、X-Junkmail-Status ヘッダー以外の X-Junkmail ヘッダーを使用するフィルタリングが機能しなくなります。

デフォルト Junkmail フィルタや JunkmailManager の隔離動作が行えなくなります。

自身でスコアリングしたヘッダーを利用している場合には対象外になります。

これを回避するには < 設定変更 > を実施下さい。

尚、 < 設定変更 > を行なう前に、前段の RazorGate の A/PTR レコードが名前解決出来る必要がございますのでご確認下さい。

< 設定変更 >

. 前段の RazorGate にて暗号キーを生成します。

```
CLI> > key new MTA "" "" ""
```

キー生成中に SMTP サービスの再起動が発生します。

. 生成されたキーを確認します。

```
CLI> key get MTA ""
```

```
CLI> key getpublic MTA ""
```

例)//

```
CLI> key getpublic MTA ""
```

```
MTA public "rg.xxx.com" "" "" {1028}
```

```
#@Mirapoint-Key-1.0
```

```
VHlwZT1NVEENCkhvc3RuYW1IPXJnMTAwYi00LnN2Zy5uaXNzaG8t
```

```
ZWxlLmNvLmpwDQpQRU06DQotLS0tLUJFR0l0IFBVQkxJQyBLRVkt
```

```
~~~~~
```

```
RVktLS0tLQo=
```

```
#@Mirapoint-Key-End
```

OK Completed

//

. 後段の RazorGate もしくは MessageServer に生成された public キー

(CLI> key getpublic MTA ""で確認出来るキー)を適用し、接続元の MTA host(RazorGate)を信頼されたホストとして設定します。

```
CLI> trustedhost add mtagroup <RGのIPアドレスまたはFQDN >
```

コマンド実行後、「Enter trustedhost data, finish with a '.' on a line by itself:」

と表示され、キーの入力を求められますので、public キーの #@Mirapoint-Key-1.0 から

#@Mirapoint-Key-End までをコピーペーストして、改行後に"."(ドット)を入力します。

前段の RazorGate のキーを後段の RazorGate もしくは Message Server に適用します。

適用時に SMTP サービスの再起動が発生します。

例)//

```
CLI> trustedhost add mtagroup 192.168.0.1
```

Enter trustedhost data, finish with a '.' on a line by itself:

```
#@Mirapoint - Key - 1.0
VHlwZT1NVEENCkhvc3RuYW1IPXJnMTAwYi00LnN2Zy5uaXNzaG8t
ZWxlLmNvLmpwDQpQRU06DQotLS0tLUJFR0l0IFBVQkxJQyBLRVkt
~~~~~
```

```
RVktLS0tLQo=
#@Mirapoint - Key - End
```

```
.
OK Completed
////////////////////////////////////
```

```
. 登録したキーを確認します。
CLI> trustedhost list mtgroup
```

7 . SMTP認証

SMTP認証(SMTPAuth)を使用しない場合でもこれまでのバージョンでは無効化することが出来ませんでしたが、本バージョンにて無効化のオプションが追加されました。

コマンドラインではMOS4.1.6-GA以降から無効化することが可能です。

8 . CLI プロンプト

CLI プロンプト表示がFQDNからホスト名に変更されました。またDelegated domain選択時、現在選択中のドメインが表示されるように変更されました。

例)

・CLI プロンプト表示

MOS4.2以前 messageserver01.example.com>

MOS4.2以降 messageserver01>

・Delegated domain選択時

messageserver01 (xxx.com) >

MOS4.2.3-GA 既知の問題

MOS4.2.3 に於いて、次の問題が見つっております。

1. AutoReply

AutoReply 機能を ldap 連携させた場合、ldap 側に更新内容が反映されません。

2. フィルタ

EnvelopeTo を条件指定した場合、フィルタが機能しません。

3. ジャンクメールフィルタ

MOS4.1.9 から MOS4.2.3 にバージョンアップした場合に、閾値を超えるスコアリングされたメールをジャンクメールフィルタが正しく処理しません。これは、最新バージョンにおいてコマンドラインインターフェースの仕様が一部変更された影響によります。

< Workaround >

MOS4.2.3 へバージョンアップ終了後、次のコマンドにて再設定して下さい。

例)

```
CLI>smtp set quarantinejunk on
```

```
CLI>smtp set ldarprouting local
```

ジャンクメールフィルタのルーティングを全てLDAPに問い合わせる場合には、
smtp set ldaproting all として下さい。

4. ローカルディスク

ローカルディスクを使用してフルバックアップを取得することが出来ません。

修正パッチがリリースされていますので、バージョンアップ後に適用してください。

5. RecipientCheck機能

FastPath 機能が無効な場合において、メール受信時に送信元アドレスの逆引きした結果 localhost が返されると RecipientCheck 機能が機能しません。

< Workaround >

MOS4.2.3 にて、FastPath を確認/変更して下さい。

以後、RecipientCheck 機能にて正しくメールを拒否します。

例)

```
CLI>smtp get fastpath
```

```
CLI>smtp set fastpath on
```

6. コンフィグファイルのエクスポート

コンフィグファイルをエクスポートした際、許可するメーリング リスト(whitelistto)がコンフィグに含まれません。許可するメーリング リスト(whitelistto)を登録・更新する場合、個別に登録情報を保管して下さい。

<Workaround >

以下のコマンドにて、許可するメーリング リスト(whitelistto)一覧を取得することが可能です。

```
CLI>uce listexception (domain=対象ドメイン) whitelistto
```

対象となるドメイン : "プライマリ"の場合はprimary、"どれでも"の場合はany、
"ローカル"の場合はlocal、"ローカルでない"の場合はnonlocal、
Delegated Domainをご利用の場合には各ドメインを入力します。

7. Delegated Domain Administration

Delegated Domain Administration権限を割られたユーザが管理画面にログインすることが出来ません。修正パッチがリリースされていますので、Delegated Domain Administration権限を利用されている場合はバージョンアップ後に適用してください。

Delegated Domain Administration権限の利用には別途ライセンスが必要です。

8. 割当量超過メッセージ

MOS4.2.3-GAにアップデートすると割当量超過メッセージをカスタマイズが反映されません。

管理画面ではカスタマイズされたように見えますが、デフォルトメッセージが配送されます。

Delegated Domainの割当量超過メッセージは正常に引き継がれます。

<Workaround >

管理画面 [Home->システム->ブランディング->割当量超過メッセージ]にてカスタマイズされたメッセージの内容を再度確認の上、「メッセージの設定」をクリックして下さい。

MOS バージョンアップの前に

バージョンアップの実施に際して、次の点にご注意ください。

- 注1) バージョンアップ進行中は、システムを再起動しないでください。バージョンアップ終了後に自動的に再起動が実施されます。尚、バージョンダウンは出来ません。
- 注2) ブランディングを実施されている場合、事前に現在のブランディングファイルを取得しておき、バージョンアップ終了後に再適用してください。尚、古いMOS バージョンのブランディングを使用される場合、画面の変更などにより正常に表示できない可能性がありますので、表示に問題がないか確認して下さい。正常に表示できていない場合は、お客様ご自身にてブランディングを再作成して頂く必要があります。
- 注3) クラスタシステムをバージョンアップする場合、クラスタを解除後(Standby 停止後)にバージョンアップを実施してください。
- 注4) スプールサーバをバージョンアップする場合、事前にシステムのフルバックアップを実施される事をお勧めします。RazorGate シリーズの場合は、システムコンフィグを事前にバックアップしてください。
- 注5) MOSバージョンアップを実施するには、Upgrades Allowed ライセンスが必要です。ご使用中のMirapoint にインストールされている事を事前にご確認ください。

```
CLI > license status
```

```
Upgrades Allowed
```

- 注6) MOS4.2.3 にバージョンアップを行うには MOS4.1.9 以降にする必要があります。MOS4.1.9 未満のバージョンから MOS4.2.3 に直接バージョンアップすることは出来ません。

MOS4.2.3-GA の入手先

メーカーFTP サイトからモジュールをダウンロードしてください。

ダウンロードしたモジュールは、バージョンアップ対象の Mirapoint からアクセス可能なネットワーク上の anonymousFTP サーバ、若しくは HTTP サーバに一旦保存してください。

但し、バージョンアップ前の MOS によってダウンロードするファイルが異なりますのでご注意下さい。

(MOS4.1.9、4.1.10からバージョンアップする場合)

入手先: ftp://ftp.mirapoint.com/pub/updates/R4_2_3c_GA.mpu5

(MOS4.2.2からバージョンアップする場合)

入手先: ftp://ftp.mirapoint.com/pub/updates/P4_2_3_GA.mpu5

MOS4.2.3-GA へのバージョンアップ方法

事前にサービスを停止し、必要に応じて Backup を実施した上で実行します。

Mirapoint に administrator でコマンドログイン

update install コマンドを実行

< anonymousFTP サーバをご利用の場合 >

CLI > update install ftp://ftp サーバのFQDN(/パス)/ファイル名

< HTTP サーバをご利用の場合 >

CLI > update install http://http サーバのFQDN(/パス)/ファイル名

実行例)

- 1 . update install コマンドを実行

(MOS4.1.9、4.1.10からバージョンアップする場合)

CLI > update install http://192.168.xxx.xxx/mirapoint/R4_2_3c_GA.mpu5

(MOS4.2.2からバージョンアップする場合)

CLI > update install http://192.168.xxx.xxx/mirapoint/P4_2_3_GA.mpu5

- 2 . 上記コマンド実施後、次のメッセージが表示されますので「y」を入力

Some updates can automatically reboot the system. Continue? (y/n)

インストール完了後、Mirapoint は自動的に再起動します。

バージョン確認

再起動完了後、administrator にて再度コマンドログインしバージョンを確認します。

CLI > version (MOS4.2.3-GAと出力されればバージョンアップは完了です。)

Patch

MOS4.2.3 へバージョンアップ後、次のPatchの適用をお勧めします。適用は、MOS バージョンアップと同様にupdate installコマンドを用いて実行します。(バージョンアップ方法の項参照)

- D4_Adjust_SMTP_Params

smtp 通信終了後、相手側 MTA に対して QUIT コマンドを即発行する patch です。

(入手先: ftp://ftp.mirapoint.com/pub/mert/D4_Adjust_SMTP_Params.mpu5)

本 Patch は update install 時にパッチ名の最後に下記のように下線オプションを指定する必要があります。

CLI > update install http://192.168.xxx.xxx/D4_Adjust_SMTP_Params.mpu5?timeQuit=120s&cacheSize=0

パッチ適用時は自動で smtp が再起動します。

本パッチは update list コマンドでは表示されません。

- E4_antivirus_DA

VirusCheckに於いて、passwordで保護された添付ファイルをスキャンした場合、デフォルト動作としてスキャンが失敗したとのメッセージが対象メールの本文に挿入されます。このメッセージ挿入を実施させない場合に本パッチを適用します。

(入手先: ftp://ftp.mirapoint.com/pub/updates/E4_antivirus_DA.mpu5)

本パッチはsmtpサービス稼動中に適用してください。

(サービスを停止した状態で適用すると正しく反映されない場合があります)

パッチ適用に伴うサービス再起動は発生しません。

- D4_2_3_admingui

Delegated Domain Administrationライセンスをご利用の場合、本パッチを適用してください。Delegated Domain Administration権限を持つユーザが管理画面にログイン出来ない問題が修正されます。

(入手先: ftp://ftp.mirapoint.com/pub/updates/D4_2_3_admingui.mpu5)

パッチ適用に伴うサービス及びシステム再起動は発生しません。

- D4_2_3_backup_local

ローカルディスクを使用したフルバックアップが失敗する問題を修正します。ローカルディスクを使用している場合は本パッチを適用してください。

(入手先: ftp://ftp.mirapoint.com/pub/updates/D4_2_3_backup_local.mpu5)

パッチ適用に伴うサービス及びシステム再起動は発生しません。

尚、ご使用頂いているシステムに既に適用されている patch によってはバージョンアップ後に update list コマンドの結果に表示されないものがあります。また、元々 update list には表示されない patch もありますので、ご不明な点は弊社窓口までお問い合わせください。

お問い合わせ窓口

日商エレクトロニクス株式会社

ソリューションパートナー事業本部

技術統括部 サポート第二グループ

e-mail: mp-tech@nissho-ele.co.jp

改訂履歷

2011/2/18 初版

2011/6/16 初2版

以上